

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 8 月 9 日（水）19 時 00 分

場 所：福社会館 6 階ホール

団体名：岡崎大学懇話会

43 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長― 皆さんこんばんは。本日は、学生の皆さまがたにとっては、貴重な夏休みの最中でありますのに、こうして市民対話集会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。これまで小学校と中学校では、こうした催しはやったことがあるんですけども、大学の皆さまとは、初の機会となるわけであります。

さて、大学懇話会の皆さまがたには、日頃から本市の市政運営に対しまして、多大なるご協力を賜っておりますことに、まずもって御礼を申し上げたいと思います。とりわけ、昨年開催いたしました、「岡崎泰平の祈り」におきましては、学生の皆さまがたが運営の中心となっておりまして、私が目指しております、民主体のまちづくりに向けた第一歩となったと考えております。本日は、現在の市政の状況をご報告申し上げますとともに、これからの岡崎のまちづくりを担う若い皆さまがたの柔軟かつ斬新なご意見を伺えるものと、楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

手前みそではありますけれども、議会の審議以外にこうした形で市長が市民と対話集会を重ねながら行政をおこなっているというケースは、全国でもまれなものではないか、このように自負しております。これは、私が理想といたします、顔の見える民主主義の政策の一つであるわけでありまして、それができるこの岡崎市というものに、大変誇りを持っております。

さて、岡崎市では、昨年の市政 100 周年という節目の年を経まして、次の 100 周年に向けた、新たな歩みを進めておるところであります。7 月 30 日より開催されました、「岡崎城下家康公夏祭り」ですが、新たな会場となりました、額田のわんパークでは、多くの家族連れでにぎわいまして、イオンモール岡崎での「おかざき大夜市」も大いに盛り上がったようであります。岡崎公園など、メイン会場のイベントや、締めくくりの花火大会も盛大に執りおこなれまして、公民連携の事業というものが、着々と根付いているんじゃないかと、このように思っているところでもあります。この祭りで配られましたうちわは、毎年、学生の皆さまがたにデザインしていただいております、本市の夏祭りに華を添えていただきましたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。また、こうした絵といいますと、市の広報誌の表紙の絵も、学生の皆さんにお願いしております、大変好評を博しておるところであります。

先般、皆さんご承知のとおり、福岡県、大分県を中心とした九州豪雨によります、甚大な被害が発生いたしました。本市も即座に緊急消防援助隊を派遣いたしまして、他県での活動としては初めて、レッドサランダーも災害対策に活用されました。現在は、募金活動も実施いたしまして、被災地の一日も早い復旧に協力してまいりたいと考えております。こういった集中豪雨は、大気の状態によって、いつどこで発生するか分からないものであります。ここひと月では、東海地方でも、各所で短時間に大雨が降りまして、本市におきましても、土砂災害警報情報が発令されておるところであります。市民の皆さまへの情報提供や、適切なタイミングでの避難勧告など、引き続き災害対策にも万全を期してまいりたいと考えておるところであります。

まちの魅力向上を図り、充実した住民サービスを提供していくためには、将来にわたって、安定した財源というものを確保することが必要であります。これからの財政には、現在の本市の経済の柱であります、自動車産業を中心としたものづくりに加えまして、もう一つの柱として、本市の特徴であります、独自の自然と歴史文化資産を生かした観光産業の育成というものが重要であると考えております。

そしてその第一歩となりますのが、現在着々と進んでおります、乙川リバーフロント地区の整備であります。今回のリバーフロント計画というのは、行政によるハード整備だけを目的としたものではなくて、公共が整備した空間を、民間の皆さまがたに活用していただき、儲けを出していただくことで、その結果、行政は税金としての収入を得る、こういった稼ぐシステムを目指したものであります。

こうした趣旨のもと、昨年に続きまして、「おとがワンダーランド」を開催いたします。今年は、昨年生み出されました、豊かな水辺空間の活用を、いかに日常的な風景にしていけるか、このことをテーマに、年明けの1月31日までの期間に実施してまいりたいと考えております。事業の実施につきまして、期間中、随時募集をしておりますので、もしやってみたいという方がおられましたら、ぜひよろしくお願いいたします。

次にハード整備の状況であります。殿橋下流の河川敷の整備がほぼ終わりました、きれいに明るくなった河川敷におきましては、多くの方が散歩やジョギングなどで楽しんでいただいている他、若いカップルが増えることは予想しておりましたけれども、高齢者の夫婦の方にも親しまれておりますことに、予想外の結果が出てきた、こんなふうに思っております。

また、殿橋と明代橋の間におきましては、平成31年の完成を目指しまして、仮称乙川人道橋の工事が進みまして、現在、橋脚が2基と橋台1基が完成しまして、目で見ても、整備が進んでいることを実感していただける状況となっております。この事業に反対されていた方の中からも、実際にできた石積みふうの橋脚などを見て、やっと市長が何をやろうとしているのか分かってきたような気がする、こんな声もいただいております。今後は、一つ一つ、こういうふうに形にしていくことで、視覚的により正しく理解が得られるんじゃないか、このように思っております。

また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、仮称乙川セントラルアベニューとして、平成31年度中の完成を目指して整備を進めているところであります。徳川四天王の石像も、ここに配置したいと考えております。しかし、いつも申しておりますとおり、決してこうしたハード整備をすることが最終目標ではなく、これによりまして出現した空間を使って、いかにまちのにぎわいというものを作っていくか、このことが一番のポイントであると考えております。

今後は、名鉄東岡崎駅を出発点として、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙川河川敷までを巡る動線に沿って楽しく歩いていただきまして、人をまちへ呼び込むための工夫がありますとか、人々の好奇心をそそる、ソフト事業の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

この動線でありますけれども、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪と重なりまして、その形状がQの字に見えることから、アルファベットでQ、U、R、U、W、A、「QRUWA（クルワ）」と名付けておりますので、皆さまにもぜひこの愛称をかわいがっていただきたいと考えております。

またこの秋には、健康づくりを支援する新たな取り組みといたしまして、スマートウェルネスシティ首長研究会に加入してまいります。歩いて健康、食べて健康、そういったことをまちの中で実感できるように、にぎわいの他にも、健康づくりの観点からまちづくりを実施、実践してまいりたいと思っております。市内の公園整備にも、この視点を取り入れていきたいと考えております。

そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するため、ペDESTリアンデッキを整備してまいります。中央部分には、新たな広場が生まれることとなりますので、完成後はイベント会場や朝市、移動ショップのような要素を取り入れた利活用をしてまいりたいと考えております。皆さんも、いいアイデアがありましたら、ぜひ提案していただければと思っております。

これまでもそうしてまいりましたが、より良いプランがあれば、それを取り上げていきたいと考えております。また、このペDESTリアンデッキには、これまでさまざまな機会でも申し上げてまいりましたが、松平元康から徳川家康と改名した25歳当時の若き日の家康公のブロンズの騎馬像を、川と緑を背景に配置したいというふうに考えております。完成の暁には、これを単なる観光スポットとしてだけではなくて、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立へのチャンスとして、天下統一と太平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かい、人生を開いていくという精神を岡崎の子どもたちにぜひ学んでほしいというふうに考えております。

この、今、見ていただいております写真は、制作にあたっていただいております神戸峰男先生のアトリエでのものでございます。そして、この騎馬像というのは市民の浄財で作りたいということで、昨年からの寄付金を集めておるところでございますけれども、まだちょうど1年ほどたったばかりでございますけれども、騎馬像の建設に向けての基金というのは、大体集まっております。しかし神戸先生が、私たちの望みを受けて、日本一の騎馬像にすることで、台座にも大変こだわっていただきまして、徳川家康ってのは決して1人で天下を取ったわけではない。その下には名もない数多くの三河武士の犠牲があって、そしてその上に天下統一という大偉業が成し遂げられたわけでありまして、台座の四隅には四つのテーマを持った像を合わせて作りたい、こういう意向でありますので、もうしばらく私は営業活動を続けなければならない、こんなふうに思っているところであります。

なお、これらの施設というものは、平成31年度当初の供用開始を予定しております。同時にこの地域におきましては、路上喫煙やポイ捨てなどを規制するための新たな条例の検討も進めておりまして、これから岡崎の玄関口が、快適で魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、大いにご期待いただきたいと思っております。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みとしまして、本市特有の歴史文化資産を活かした、歴史まちづくりを進めてまいりたいと考えております。市内には、13 か所の国の指定の建造物があるわけですが、これがなかなか市民の皆さんに理解されておらんところでもあります。こうしたものを市民の皆さまにアピールしていくことも必要でありますけれども、私たちとしては、これを、点を線としてつなぎまして、観光コースとして活かしていきたいと考えてるところであります。

その起点となりますのが岡崎公園でありまして、これからは家康公生誕の地にふさわしい史跡として、再整備をしていく必要があると考えます。特に公園内などに、戦国期から江戸期にかけて整備されました堀や石垣は、歴史的に価値の高いものがありまして、岡崎城最大の売り物であると考えております。そして、名古屋城と同様に、岡崎城の天守も建築から間もなく 60 年を迎えますことから、近い将来、城をどのように建て替えていくのか、あるいは延命措置をおこなうのか、このことを決めなければならぬときが、間もなくまいります。

専門家に意見を伺いますと、木造で再建すれば、手入れ次第で 400 年以上は持つが、コンクリート製でありますと資材の劣化によりまして、100 年ほどで再び建て替えの時期を迎えることになる、ということでもあります。ただし、木造で再建する場合には、史実に近い再建となるため、現在城内にあります資料を展示するための建物が別に必要となってまいります。そしてまた、史実のとおりにつくった建物というのは、冷暖房もありませんし、中は大変暗いものでありまして、ちょうど古いお寺を重ねたような建造物になるというふうに思っております。ただ、天守閣というのは本来、戦時物見やぐらでありまして、決して居住性が高いものではないわけでありまして、どちらにするかというのは、またそのときの岡崎市民の判断に任せたい、こういうふうに思っているわけでもありますけれども、私としましては、そのための、今からできる限り、岡崎城に関する資料というものをきちんとそろえておきたい、このように思っております。

5 月 1 日号の市の広報にも載せましたけれども、現在市民の皆さまには、自宅のお蔵や倉庫に岡崎城の設計図でありますとか、見取図、古い写真というのが残っていないのか、もう一度ご確認いただきたいをお願いをしているところでもあります。かつて四国の高松城も、同じ試みで古い写真が平成 17 年に、イギリスのケンブリッジ大学で発見されまして、お城の再建に弾みがついた、こういう話を聞いております。岡崎市は旧家が多い所でもありますので、同じように発見される可能性は十分ある、このように思っております。

そしてこれらの事業以外にも、岡崎の全体を見据えたまちづくりを、四六時中進めております。まず市の北部にあります、旧県営グラウンド、仮称龍北総合運動場につきましては、ようやく愛知県からの移管が決まりまして、平成 32 年の供用開始に向けまして、整備を進めてまいりたいと考えております。各施設につきましては、陸上競技場を第 3 種公認に向けて全天候型の整備の開始をおこないますとともに、観覧スタンドの設置もおこないたいと思っております。さらにその内側は、天然芝を張ることによりまして、望まれております、

サッカーやラグビーのグラウンドとして活用できるように整備していきたいと思っております。

また、老朽化が著しい 50 メートルのプールにつきましては、県の管理下におきましてこれを撤去いたしまして、新たに 8 面のテニスコートが作られます。なお、新たなプールにつきましては、ただ今、別途調整中であります。今後、皆さまにご満足いただける施設になるよう、整備をしてまいりたいと考えておりますので、ぜひこちらにもご期待ください。

南部地域におきましては、先の東岡崎駅と並ぶもう一つの玄関口であります JR 岡崎駅前に、コンベンションホールとオールスイート仕様の高級ホテルを始めとしまして、レストランやカフェを併設した商業施設が、今年の 10 月頃オープンいたします。外周には、ご覧のとおり、噴水付きの公園でありますとか、岡崎駅とつながるペデストリアンデッキも整備されてまいります。なお、駐輪場につきましては、もうすでにこの 7 月よりご利用いただいております。

そして市民待望の藤田学園の大学病院につきましては、24 時間 365 日の緊急医療に対応し、22 の診療科と 400 床の病床を持つ総合病院が、平成 32 年 4 月の開院を目指して整備が進められることが正式に決定し、去る 2 月に完成予想図も公表されたところであります。来週には建設工事も始まります。さらに大学病院の隣接地には、ヘリポートを備えた駅前中央公園の整備でありますとか、各種商業施設の進出が決まっております、これからの南部地域というのは、大きく変わっていくと思われまふ。この、今見ていただいております絵、これが駅南の中央公園の図でありますけれども、外周の所は病気で入院されておみえになる方が、外周を使ってリハビリに共用できるような施設も作りたい、合わせてそれは地域の皆さまがたが、健康増進のために使っていただけるように、そんなふうにも考えております。もちろん、そうした施設を活かしていくためには、接続道路でありますとか、環境整備が必要でありまして、こちらのほうも国や県と協力してしっかり整備をしてまいりたいと考えております。

また、額田地域におきましては、平成 30 年春の供用開始を目指しまして、額田支所を始め、周辺にあります額田図書館などの機能を集約した、仮称であります、額田センターの整備を進めております。さらに、市内各地の公園整備におきましては、額田の木材の活用でありますとか、地域独自の活性化対策についても、ただ今、検討中であります。これまで公園というと、どちらかというと子どもの遊び場という認識が強かったわけでありまふけれども、これからは高齢者のくつろぎの場として、また、市民の健康増進のための場所としての整備をしていきたいと考えておりまして、そこに額田産の木材が使えるのではないかと、このようにも考えております。

そして、本宿駅の周辺におきましては、本宿駅周辺の再開発計画に続きまして、新東名岡崎東インターチェンジや、国道 473 号バイパスの整備によりまして、この地域の利便性ってのは大変良くなりまして、民間事業者によりまふアウトレットモールの進出計画が今、上がってきておるわけでありまふ。これは先ほどのインターチェンジ等に加えて、国道 1 号、

さらには名鉄本線からも近いなど、交通アクセスが良いことに加えて、土岐や長島のアウトレットから 50 キロほど離れている、こういった条件が優れているということで選ばれたものでありまして。先般も事業者を確認しましたところ、現在鋭意準備を進めている、こういった話が返ってまいりました。これが建築のパスと言いましょうか、全体の見取図があります。実際にはこのとおりになるかどうか、ちょっと分かりませんが、大体こういったイメージで整備していただけることになっております。

現在東部地域では、生鮮食料品でありますとか、生活必需品を買う場所がちょっと少ないですので、できればここにそういう場所も作ってほしいということ、地元の要望として事業者には伝えてあるところです。ここではまだ、土地の問題で農地転用の課題が残っているわけでありまして、もし実現すれば額田地域を含む東部地域の活性化において、雇用も含めて大変大きな影響がある、このように期待しておるところであります。その他、矢作地区におけます矢作川堤防リフレッシュ等の整備を始めといたしまして、サイクリングロード、公園整備などをおこなう他、JR 岡崎駅におきましてエレベーターを設けるなどのバリアフリー化を進めてまいりたいと考えております。

そしてスマートインターチェンジの開設につきましては、東名高速道路の阿知和地区がいよいよ準備段階調査地区として選定されたところであります。引き続き、新東名高速道路のサービスエリア、NEOPASA 岡崎への開設を検討してまいりたいと考えております。

このように、私の 2 期目の市政も順調に進んでおるわけでありまして、皆さんにその成果を感じていただくことができるようになっております。こうした政策の究極の目的というのは、いつも申しておりますけれども、岡崎の市民、特に子どもたちが自らのふるさに対して、より大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢ある、新しい岡崎を作り上げることです。ふるさに対する愛情でありますとか、誇りというのは、決して与えたり教えたりすることができるものではなくて、自らの心に自然に湧き上がってくる情念の高まりであると考えております。そうした愛郷心というものが、祖国への愛情や誇りにつながっていくものであると考えております。本日こうして参加してくださった皆さんは、そういう心をお持ちの方であると思っておりますので、本市の、そして日本の将来を託せるものと期待しております。私は市長として、これから次の 100 年を見据えて、福祉や医療、防災、教育といった基本政策の充実はもちろんのこと、さらなる魅力あるまちづくりに、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。今後とも引き続き、皆さまがたのお力添えをお願い申し上げます。私の話を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会— それでは、代表の方からごあいさつをいただきます。よろしくお願いいたします。

幹事校代表— 本日は市民対話集会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。本日は、岡崎の大学懇話会を中心に学生部会の学生に何名か来ていただきまして、いろんな話をしてもらいたいと思います。

日頃さまざまな分野で活躍をしている学生たちが、いろいろ思いがあると思いますので、その辺をお聞きいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会— ありがとうございます。それでは、要望、提案を事前に伺っておりますので、発表していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

団体代表 A— 私は福祉と子育ての観点から、岡崎市を評価したいと思います。まず福祉の面からです。私は福祉施設実習で岡崎市にあるこども発達支援センターを訪れました。こちらの施設は、発達に心配のある子どもの相談、医療、支援を総合的に提供されており、手厚い支援がおこなわれていると思いました。また、こども発達支援センターを含む福祉の村には、障がいを持った方の通所、入所施設もあり、子どもから大人までどの年齢層に対しても、充実した環境が整っているなと思いました。

続いて、子育ての面から話をしたいと思います。私はあまり岡崎の施設を利用する機会が多くはないので、一様には言えないのですが、親子で体を動かす施設が少ないのではないかなと思います。岡崎げんき館などがあるのは分かりますが、他に目立つものがないのではないかと私は思います。私は大府市に住んでいるのですが、大府市にはあいち健康の森という、子どもが自然に触れあいながら遊びを楽しめたり、大きな道具があったり、大人もランニングコースやトレーニング施設があったりと、大府市は健康都市をうたっているだけあり、子どもから大人まで健全に過ごせるような施設が多くある印象を持ちます。健康の森の周辺施設には、げんきの郷というものがあり、そちらの施設では地産地消の食物が多く売られており、子どもが大人と一緒に食育を学ぶ場も設けられていると、私は考えます。

岡崎市には、われわれ若者が楽しむ娯楽施設が少ないのではないかと思います。アクセスは JR、名鉄、高速道路もあり、とても優れていると思うので、ぜひ娯楽施設、われわれ若者が楽しめるような施設が増えればいいかなと思います。以上です。

司会— ありがとうございます。それでは、回答よろしくお願いいたします。

総合政策部長— むきになるわけではございませんけども、大府のあいち健康の森は、県営施設でございまして、ああいった施設が愛知県に一ついるんだらうといったところで、ちょうど尾張と三河の中間点の大府に作られたと。もうちょっと子ども向けのものが西尾にもあります。これも県営でございます。ちょっとその辺の趣が違うということだけ覚えておいていただきたいと思います。

今、発達センターと福祉の村で、いろいろ学ばれたと。まず、親子で体を動かす施設ということでございますけども、多分幼児期、乳幼児っていうんでしょうか、それですと、今私も地域交流センターという施設を、東西南北、中央と持っております、こちらのほうには親子が、これはあくまで幼児期に近い場合になりますけども、そういう乳幼児と親御さん

が触れあえる施設というのは用意してありますし、また一般的な保育園のほうも、子育て広場と銘打っておりますけども、そちらのほうでは、保育園の園庭の開放ということもやらせていただいております。

若者の娯楽施設ということであると、今、市長が冒頭申し上げました岡崎のサービスエリアですね。あれも一応、食物的な娯楽施設ですね。多分、今年間 800 万人近くを集めておりますので、そういった施設であろうと。それと、先ほどパースもあったかと思っておりますけども、本宿の近くで今、事業展開されようとしてますアウトレットモール、これもおそらく娯楽施設かなというふうに思っております。

あと、私も市が持つておる施設といたしましては、南公園。少々古い施設ではございますけれども、もともと大きな児童遊園というコンセプトで作った公園でございまして、非常に低価格に親子が触れあいながら遊んでいただけるといったものもございまして。大府にお住まいということでございますので、一度また、少しつぶさに回っていただけると、それなりの良さというのが見えてくるのかなと思っております。

市長― ご質問ありがとうございました。僕は聞いてとってもすごい意外な感じがしたんです。と言いますのは、僕が県議会議員の頃は、なかなか子どもと遊ぶ時間が取れなくて、どうしてたかっていうと、時間が 2 時間 3 時間ってできると、車に小さい子どもたち 3 人乗っけて、岡崎市の公園回ったんですよ。岡崎市内って公園が結構よそと比べて多くて、しかもそれぞれ個性があって面白いんですよ。ですからお金を掛けずに小さな子どもを遊ばせることができ、僕は当時県議会議員でしたけど、ああ岡崎、いろんな所があっていいなというふうに思っていました。そういうことを、岡崎市っていうのはあんまり PR してませんので、多分知らない人が多いんじゃないかと思えますよ。ですから、施設をいくら作っても使い方が十分認知されてないと、さっき言われたような話が出ちゃうんじゃないかなって、そういう今、反省をしております。

それから、新聞記者さんってのはなかなか厳しいことばかり書かれるんですけど、先日会ったときに意外なことを言われた。岡崎ってのは、はっきり言って子どもを育てるには大変育てやすい所だったと。自分は岡崎市に来て 4 年間いたけども、小さな子ども育てるのに大変楽だったと。それから岡崎からやっていただける補助なんかも、よそと比べて大変手厚かったと。その人からそれを言われるっていうのは、僕は大変意外でしたけど、そういった、なかなか厳しい方からの、そういう評価を受けておりますので。ですので、私たちの PR 不足っていうこともありますけど、岡崎をもう一度、ちょっとしっかり見てみてください。大変面白い所たくさんありますし、これから、そういったものも整備していきたいと思っております。

それから、若者が遊ぶのにいい場所ということですけども、これは、そういう場所を公共の仕事として果たして僕らがやっていくべきかどうか。これは公共がやっていくことではなくて、民間の事業者がやっていくことではないか。僕は基本的にそういうふうに考えてお

ります。ただ、スポーツの振興のためとか、そういうことについてはこれからしっかりやっていきたいと思ってまして。長年、県との間で折衝してきて、僕は県議会議員のときからやってきましたが、なかなかまとまらなかった、旧県営グラウンド。これは龍北総合運動場ということで、先ほどご報告いたしましたけど、ああいう形で今後はしっかり整備してまいりますし、それからプールというのは大変お金が掛かる施設でありますけども、かつて岡崎市の真ん中に流水プールというのがございまして、僕のうちから歩いて数分で行ける所がありましたので、半日しか時間がないときによく子どもを連れて行って、大変重宝したんですけども。そういうのがない点は、これからの課題ではないかなと。そういったものを何とか早く作りたいなと思っております。以上です。

司会― 引き続き、よろしくお願いいたします。

団体代表B― 私は、長野県の山形村という所の出身で、大変田舎育ちの者でして、この岡崎市の市長さんに意見を言うなど大変おこがましいことで、本当に申し訳ないと思うんですけども。

私がすごく感じたことは、この岡崎市に住み始めて思ったことは、高校時代は私、松本市の辺で過ごしていたもので、松本市も岡崎市と同じように、城下町というイメージがあって、お城を活用したまちづくりがすごい進められていると思うんですけども、岡崎城の周りってというのが、古い町並みとかがないのかなっていうふうに思っていて、少しさみしいなっていうふうに思っていて。城下町として栄えている町なのに、お店がなかったりだとか、古い町並みが残っていないのがすごくさみしく感じました。

岡崎には独特の文化とか、化け猫伝説だとか、八丁味噌だとかっていう文化がたくさんあると思うんですけども、岡崎城にも、せっかく家康が生まれたってのがあるんですけど、私、長野県にいたとき、本当に岡崎市のことを全く知らなかったの、ここに来て初めて知ることってのが多くあったので、そういうところで情報発信をもうちょっとしていくと、人がもっと集まって来てくれるんじゃないかな、なんてふうに私は思うので、その点で、お城の周りとかの、先ほどもVTRに出てたと思うんですけど、環境整備とか情報発信などをしていただけると、すごくいいんじゃないかななんて、僕は思いました。たくさんの施設が街の所にあるってのはすごくいいことだと思うんですけど、いろんな所にまばらにあって、分かりにくいつてのがあって、1カ所にまとまって何かがあると、すごく便利じゃないのかななんて、僕は思いました。

司会― ありがとうございます。それでは、回答よろしくお願いいたします。

市長― ありがとうございます。よそから来た方が、岡崎をより客観的に見ていただいておりますので、そういう意見はこれからも大切にしていきたいと思っております。今、言って

いただいたことは、私たち岡崎市の者ですけど、愛知県人全体の反省点。と言いますのは、自分たちが分かっているといいということで、あんまり人にPRしないんですね。だから名古屋が一番人気のないまちって言われとるのは、あれは絶対過小評価。私は県議員になって20年間の間に、名古屋は本当に飛躍的に近代的なまちに生まれ変わりました。だけど名古屋市民は、全然そういうこと宣伝しないんですよ。そのためにああいう評価を受けたんだろうというふうに思っております。世界一と言ってもいいようなものも、たくさんまちにあります。

で、岡崎なんですけど、岡崎はさっき言っていたとおり、城下町だったんですけど、戦争の最終年、アメリカ軍の爆撃によって中心市街地がみんな丸焼けになっちゃったんです。それで古い建物が、その地域に少ないというのは、そういう影響がありますけども、まだそれでも、籠田公園の周辺には残っておりますので、これからそういった古い町並みを大切にしたいまちづくりをやっていきたいと思っております。

それからもう一つは、これは岡崎だけではなくて、西三河全体に言えることなんですけども、この地域ってのは、戦前から産業地域でありまして、戦前は繊維産業なんかで栄えてきたんですけども、戦後は自動車機械産業中心に、ものづくりで栄えてきたと。ものづくりで豊かになってきたと。今、愛知県ってのはこんなに財政状況が豊かっているのも、これはとりもなおさず、ものづくりを継続してきた結果、この豊かな地域なんですよ。ですから、例えばうちの息子はたまたま九州の大学行ったんですけど、その大学の卒業生、就職するのは6割が中部圏。それぐらいやっぱり、若い人にとって収入のいい、条件のいい職場があるわけです。それだけ産業で栄えて豊かさがあるわけです。ところが私たちは、岡崎の良さというのをちょっと横に置いて、これまでものづくりで経済発展ばかり追求してきちゃったんです。僕が選挙に出てきたのは、ものづくり、経済発展というのはもちろんまちづくりの中で重要な要素ですけども、それだけじゃなくて、岡崎には他のまちにはない素晴らしい財産がある。それが美しい自然景観であり、歴史的な文化資産。それを活かしたまちづくりをやっていこうということで、さっき長々と話をしたわけなんですけどね。まだ完成しておりませんけども、この数年のうちに、そういったものを活かした施設、また、モニュメントなんかも含めて、次から次に出てまいります。

それで先ほど申し上げましたとおり、一番大事なことは、そういうものを作ることじゃないんです。よく、何か素晴らしい施設を作ると、それで地域の経済発展が急速に変わるというようなことを言う人がいますけども、そんなことは幻想です。そんなもの作っても、どうやって運用していくかってことが一番大事であって、私たちもそういったことを教訓として考えております。かつて、名古屋の大曽根ってまちが、オズモールというネーミングをして、まちの景観をおとぎの国のようなものに、表面上作り替えたんです。最初は日本全国から視察、視察で、われわれも見に行きましたけど、確かにものすごいきれいなまちになってた。だけど結局、何年かたったら、また鎮火しちゃった。それはなぜかって言うと、景観だけきれいにしたけども、そこで特別な面白いイベントとか、そういったものが継続しておこ

なわれてなかった。そのために、結局その商業政策はうまくいかなかったってこと。

例えばディズニーランドなんですけども、ディズニーランドってのは、毎年すごい集客力。あの集客力は何か。もちろん、ディズニーが持っているコンテンツ、そういった資産っていうものはすごいものがあって、それが人々を招いてるわけですけど、それだけじゃなくて、毎年 200 億円近く掛けて、さまざまなイベントを運用したりお土産物を研究したり、次から次へ新しい展開をしているわけ。そのおかげで、ディズニーってのはあれだけ儲かってるわけ。私たちは公共事業ですから、そんなにお金を掛けることはできませんけども、ああいうのを使って、そうした市民が楽しんでいただけるまちづくりに、これからしっかり頑張っていきたいと思っております。

司会ー よろしかったでしょうか。ありがとうございました。それでは引き続き、要望、提案をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

団体代表Cー 自分は大学でアーチェリー部に所属しております、東京五輪、2020 年に開催されることが決定しまして、そちらを目指して日々練習をしております。そこで、9 月に岡崎市の中央総合公園で開催されます、アーチェリーの選手権大会の誘致をきっかけに、アーチェリーのメッカ岡崎になるための、若手の支援を含めました長期の政策を、ぜひともお願いしたいというふうに考えております。また、具体的な政策等が現在あるのでしたら、ぜひとも教えていただきたいなというふうに思います。

司会ー ありがとうございます。それでは回答をよろしくお願いいたします。

市長ー 結論から申し上げますと、アーチェリーにつきましては、これから施設整備、人材育成について、両方に渡って積極的に取り組んでいきたい、このように考えております。ことに、この地域におきましては、ロンドンオリンピックの銅メダリストであります蟹江選手が、愛知産業大学の三河高校の出身でありますし、また愛知産業大学におきましては、世界に通用する指導者が多く在籍しておりますし、岡崎はアーチェリー競技においても多くの有力な選手が今でもおみえになります。しかも、すでに岡崎の中央総合公園、それから先ほどの県営グラウンド、龍北総合運動場にアーチェリーのコースがきちんとできてまして、まだこれは完璧だとは言えませんが、そうしたものにしっかりと力を込めていきたいというふうに考えております。

2026 年開催のアジア大会におきましては、岡崎中央総合公園の多目的広場が、アーチェリー競技の会場候補地となっておりますし、2026 年のアジア競技大会を見据えて岡崎中央総合公園多目的広場で、今年度 4 月に 2 回、世界アーチェリー選手権大会選考会を開催しております。今年の 9 月 16 日、17 日には、アーチェリーの全国大会の開催を、岡崎中央総合公園多目的広場で予定するという事になっております。

司会― よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございました。それでは次の要望、提案を、よろしくお願いいたします。

団体代表D― 私は大学生の奨学金制度について、質問をさせていただきます。現在岡崎市では、貸付型の奨学金を導入していますが、条件付きの給付型奨学金の導入は検討できますでしょうか。例えば、岡崎市に在住または市内の大学に通う学生に対して、岡崎市に所在する事業所に勤めることを前提として、奨学金の給付を学生時代におこなうというものです。この制度の導入をきっかけに、岡崎に住むということや、岡崎に進学するというメリットを増やしていくことで、岡崎で活躍する人材が増えると思います。以上です。

司会― ありがとうございました。それでは回答をよろしくお願いいたします。

総合政策部長― 奨学金、これ以前はそういう給付型というのを、特定の下資があるときにはやっておったこともあるんですけども、やはりそういったものは、全国津々浦々で、公平平等におこなわれるべきであろうと。財政力のある一自治体が突出してやっていいものかどうか、ちょっとそこもございまして。

で、私の持っている情報ですと、平成 30 年度から国の方で給付型の奨学金制度がいよいよ本格的に実施されるということを聞いておりますので、やはり市単独のものというのは、通常これに上乗せとか、そういうものもあるんですけども、先ほど言いましたように、やはりこれは国民であれば、どこにおっても同じようなサービスがという、公平平等の観点からは、しばらく見守りたいなと。これは国の制度によりたいと。

その関連で、一定の給付条件ですかね、岡崎市に勤めるということでもありますけども。これは岡崎市の事業所といいますと、それは岡崎にしかない会社なのか、岡崎の外か、岡崎に本社置いてある会社なのか、いろいろあるかと思うんですけども。そういうケース・バイ・ケースは分かりませんが、ただ、これもあまり条件を付しますと、憲法が保障しております働く自由というもので、場合によっては、隷属契約とは言いませんけども、岡崎に戻ってきて働く、その条件の人にだけ貸しますというのは、少し問題があります。もし今いただいたご提案であれば、いったん貸し付ける、で、返していただくにあたって、岡崎に何年か勤められた方は返済結構ですと。これは条件にはならないんですね。返すときの有利な計らいということですので。そういったことは、将来的に考えてもいいのかなという気はしますが、総じて給付型の奨学金につきましては、来年度から本格実施されます国の制度、このなりゆきに任せたいというふうに考えております。以上です。

司会― よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございました。それでは、次の要望、提案をよろしくお願いいたします。

団体代表Eー 今回、若者に住みよいまちづくりというテーマに対して、私たちは学生生活を送っている本宿に焦点を絞り、大きく二つの提案を考えました。

まず一つ目は、アウトレット誘致における周辺の開発です。先ほど市長のお話にもありましたが、2016 年再選後の市長の発話で、本宿周辺にアウトレットの誘致が上がってることを知りました。そこでどのような再開発が望ましいのかを考えました。現状として、近隣に若者が集える場が少ないため、学生目線から見て、本宿というまちに対して物足りなさを感じているのが正直なところだと思います。そこで、私たちはアウトレット誘致に大きな期待を寄せています。しかし、アウトレット以外にも若者が集える場を創造することで、若者に住みよいまちに近づくのではないかと思います。具体的には、今は閉鎖されている既存の温泉施設を活かした、アミューズメント施設を誘致してはどうかと考えます。特に若者に人気がある岩盤浴を取り入れることで、需要が増すのではないかと考えています。

二つ目は、自然環境を活かした定住環境の整備です。近年、田舎に I ターンしたいという若者層が一定数います。額田地域はたくさんの自然が残る魅力的な地域にもかかわらず、定住が進まない現状があります。その中に獣害問題があり、定住者が農業をおこなうのに不向きな状況にあります。また、子どもたちが自然に触れあえるようなイベントが少ないと感じます。子どもがおこなう自由研究や、森林探索などの自然環境のイベントを、大学と連携しておこなうことによって、地域交流の幅も広がるのではないのでしょうか。そこで、自然環境の整備を提案します。

この二つの提案を考えるにあたって、私たちが直面したのは、移動の問題です。というのも、愛知県は車社会だと言われながらも、多くの学生は車を持っていません。つまり、移動の問題は単に過疎地域の問題だけではなく、学生街にも当てはまるかもしれません。そこで行政の支援等をお借りして、まちバスなど、本数や路線を増やしていただくことにより、若者に住みよいまちが実現するように思います。

司会ー はい、ありがとうございました。それでは、回答のほうよろしく願いいたします。

市長ー ありがとうございます。このアウトレットの誘致につきましては、これは岡崎市が来てくださいと言って引っ張ってきたわけじゃなくて、先ほど申し上げましたとおり、新東名ができて、新しくインターチェンジができる。しかも、岡崎にはもう一つインターチェンジがあるんですけども、ちょうど岡崎の中心からいうと東にあるわけでした。その中間地点ってというのが、ちょうど山中と本宿のアウトレットの予定地なんですけど、そのことを民間企業のほうで見据えて、しかも名鉄本線という公共交通の機関があると。さらには国道 1 号線という、渋滞したときに逃げ道もありますし、また、473 号線という南北の道路も整備されている。そういった要素を総合的に考えて、当初私が話を聞いたときには、浜松、豊橋、蒲郡ほか、五つぐらいの候補地の中で、岡崎がその一つだったわけです。ですから、本当に

来るかどうか分からなかったわけですが、先ほども説明しましたように、今言った要素と、土岐のアウトレット、それから長島のアウトレット、これと岡崎の予定地を線で結ぶと、ちょうど 50 キロの三角点で結ばれる場所になるわけで。運営上もなかなかその場所がいいという、こういうことで、三井地所さんっていうところが今、誘致を進めておるわけです。

ただ先ほども言いましたように、一つ問題がありまして。ここは今、農業地域なんですよ。ですから、もしここでそういった大きな開発を進めていくということになると、まずこの農地転用という手続きをしなければならなくて、そのためには 4 年から 5 年かかるんです。ですから、今うまくいっても、まだそのくらい先のことになるわけですが、私たちはできるだけこれを、東部地域の開発のインパクトになるように、特にアウトレットというのは、高級なお洋服だとか、そういったものがありますのでね。若い人には、高級がいいかどうか分かりませんが、最先端のものとかね、あるわけですよ。ですから楽しんでいただけるのではないかなと思っておりますし、合わせて、先ほど言いましたような、東部の市民の生活に直結するような、生鮮食料品の販売もできるような施設も作ってほしい。このことは申し入れております。

さっき、アウトレットの見取図のような映像がちょっと出ましたが、あれ見ると、どのくらいのものか知らないけれども、子どもさんを遊ばせられるような遊園地的なものも、ちょっと計画されておるようであります。ただこれは、民間企業のやることですので、私たちとしても、もしやっていただけるならば要望していきたくておりますけれども、どの程度のものになるかは、ちょっと分からないというふうに考えております。

どちらにいたしましても、東部地域には、広大な土地がまだありますので、何とかそれをまちの活性化に活かせるような方向で、考えていきたいというふうに考えております。

総合政策部長― 今、市長さんから、アウトレットモールのお話をしましたけども、関連して、先ほど、本宿にあります温泉施設、そちらの方の再生のようなお話が出ました。やはり先ほどの質問でもお答えしましたけども、こういった娯楽とか、本来、市場経済、民間の経済が働くようなところは、やはりこれは民間に任せる。あまり税金が出る幕ではないと思っております。今回の場合は、このアウトレットモールの誘致、もともと進出話があったからのわれわれの誘致なんですけども、これにつきましては、やはり大きな税金というのは動きます。ただ、その商売そのものというのは、全て民間がおやりになられて、われわれは一定のウェルカム条件そろえれば、あとは民業として成り立っていくわけですね。このアウトレットモール、ざっと面積ですと 20 ヘクタールぐらいの規模のものでして、当然、周辺への活性化のインパクトというのは、相当大きなものが、今、想定されております。大体、来場者というのも、700 万から 800 万と聞いております。先ほどの岡崎サービスエリアと、ほぼ同規模の集客能力を持っておりますので、多分その、営業を停止された温泉施設も、もしその民業の中で、これは何らかの関連施設としてやっていけるな、もしくは、集まった 700 万人、800 万人を引っ張り込めるだろうということになれば、また元の形なのか、新たな形

で戻ってくる。多分これが市場経済。で、そういったところに、われわれ行政というのは、やたら突っ込まないほうがいいんだろというふうに考えております。

で、バスですね。今、確かにこの本宿から額田の辺りの、いわゆる東部地区のバスというのは、それほど潤沢ということではございません。ただ何とか朝昼晩、一応朝の通勤帯から帰りの退社時間帯、それからお昼、この辺りで。もちろん時間にすると数本しかありませんけども、やはりバスというのは、一定の需要がないと、どうしても浪費、ロスの多い事業でございまして。当然、公共交通の足の確保は、われわれ行政の、税金の出番だと思っておりますけども。

一例を出しますと、あまりニーズのない所とにかくバスが欲しいバスが欲しい。走らせても多分乗らない人が多いんです。なぜか。時間が少ないと。本来、バスの時間に自分の生活の時間を合わせなきゃいけないところも、合わせない。だから乗らない。何が起るかと言いますと、これは特定の路線名は言いませんけども、われわれが実際に今バスを補助金で運行している中に、1人の乗車を確保する、通常は大体300円から600円ですね。まあ距離によって値段は変わりますけども。そのお一人を乗せるために、1万円を使っているような路線もございます。

ただこれは、普通で見れば、全く間尺に合わないものでございますけども、税金というのは当然一定の給付的、反対給付を期待しない給付という面もありますので、そういった観点でやっておりますけども。ただ、バスの実態というのは、かなり、そういう厳しいところが。

岡崎はただ、やはり古いまちでございまして、バス路線、民間のバス路線というのは30路線あります。他都市を揶揄してはいけませんけども、豊田市さん、同規模のちょっと大きいぐらいなんですけども、民間の路線というのは9から10しかございません。岡崎市はその3倍ございます。当然そこには隙間がありますので、今、隙間がある所では、額田でまちバス、そして街中でもまちバス、これは街中でもやはり交通過疎地域がありますので、そういったことでやっております。ただ、これもいずれも採算は相当厳しいものがあります。

ただ、それでも、高齢者もしくは移動の弱者といわれる方がおられる所には、なるべくつぶさには行きたいと思っておりますけども、さりながらやはり、大きな需要が生まれてこないと。ですからもし、今回のご質問の中でいきますと、アウトレットモールで何か、くらがり溪谷、われわれが用意しておりますわんパーク、そういった自然を楽しむような施設、そういった所に大きな波及として何かが起れば、われわれはその需要に応じてバスを出すということは十分ありますので。いずれにいたしましても、バスのお話というのは、少し大きな需要というものが、先が見えない限り、なかなか難しいと。ちょっと厳しい数字も出しましたけども、以上でございます。

市長― 先ほどちょっと言い残したことがありまして。この温泉施設を活用としたアミューズメントという要望があるわけですけども。この温泉施設ってのは竹千代温泉のこと言っておみえになると思うんですけども、なぜ竹千代温泉が経営をやめてしまったかという

ますと、あそこは温泉とはいいいましても、冷泉でして、20 度以下の温泉なんです。ですので、追い炊きをしなければならない。だから経費が普通の、もっと高い温度で出てくる温泉よりも高いお金が掛かってしまって、経営が難しいということで、結局やめてしまったわけなんです。

まだこれ、正式に決まったことではないので、あんまり私から言っちゃまずいんですけども、今あそこの土地を持っておみえになります方が、この間お会いしましたときに、あの土地を何とかうまく利用して、若者が集まれるような施設を作りたいということを、言っておいでになりましたので、ちょっと期待しております。ただ、それ以上あまり詳しい話を聞きませんでしたので、詳しいことは分からないんですけども。でも、そういうプランが進展中であることは、お話ししておきたいと思います。

それからもう一つ、先ほど詳しく話しませんでしたけども、額田と岡崎が合併いたしましたから、岡崎の市域の6割が中山間地に、今、なってるわけです。山なんですよ。その山をいかに活用するかということが、これからの岡崎の市政運営の中の、大きな課題の一つとなってくるわけです。

私自身、岡崎に住んでおりますと、どうも地元のことで点数が辛いんですよ。普段見慣れてるから、大して価値があると思ってないんですけど、額田の山の景観ってのは意外と、外から来た人から見ると、大変素晴らしいってこと言うんです。前に東京から来た人で、サイクリングでずっと山のほう周遊してみえた方が、たまたま私の知り合いの友達で、お会いしたところ、岡崎というのは素晴らしい所がありますねと。ちょっと手を加えらるともっと良くなりますよってこと言ってくれまして。それに気が付きまして、この額田の中山間地を使った、山間リゾート計画ってのはできないものだろうか。もう今、すでに民間で、それを先立ててやっていた方がありますけれども。山間リゾートといっても、山に行ってキャンプがやりたいという人もいるし、バンガローで生活してみたいという人もいるし、まあ高齢者の方で、そんなことを自分でやるのはとても大変だと、だから旅館やちょっとしたホテルのような、食べるものも、身の回りのことも一応設備が整ってる所がいい、さまざまな方があると思うんです。そういった多様な施設を額田に導入することによって、そのことによって雇用も生まれます。山の、自然の中で働いてみたい、こういった若い方がお見えになると思います。そういうものの中で、この辺の活性化策を考えていけないかな、こんなことを今、考えております。

司会— よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございました。事前にいただいているご要望は、以上でございます。それでは、その他にご意見のある方がいらっしゃいましたら、ここでご意見、ご要望をお伺いしたいと思いますので、ご意見ある方、挙手をよろしくお願いいたします。発言の前に、お名前のほうもよろしくお願いいたします。

団体代表F— 今回このような会を開いていただいたこと、とても感謝します。なんですが、

今回、市長との対話集会の中で、一番始めに与えられた、若者に住みよいまちづくりというテーマでは、ちょっと抽象的過ぎて、どの範囲までを考えていいのかっていうのと、若者っていうのものは、どの辺りの層まで考えるのかっていうことで、私たちの中でとても議論が難航したところがあったので、次回からこのような会を開いていただく際には、もうちょっと具体的な要望を出していただければ、もっと考えやすかったかなと思います。ありがとうございます。

司会－ では、回答をよろしくお願いいたします。

総合政策部長－ 本来、私の考えですと、やはり皆さんで自由に決めていただいたほうが。多分、その方が対話集会になりますし、皆さまも恐らく感じたことをダイレクトにぶつけられますよね。人から、日頃考えていないことをさあ考えろと言われても、なかなか苦しいところがありますので。次回から善処するようにいたしますので、すいません。

市長－ 今、私たちがやってる対話集会っていうのは、もちろん皆さんたちは、ちゃんと岡崎の市政というものを理解していただいている方であるんですけども、中には、岡崎が何をやっているかということを全く認識してなくて、いきなり来て、自分勝手な意見をまくしたてる方もおみえになるわけです。そういうの、何回も僕は見てきておりますので、先代の市長や前の人たちもやってる中で、そういうことがあったんです。ですから、最初に、今、岡崎市は何をやろうとしているのか、何をやっているのか、こういった簡単な説明をさせていただいて、そうしたものをご理解いただいた前提の中で話を進めていけたら、こういうことを思っているわけです。

中には、ある方が、市長の話を聞くだけの会なのかって言われたことがあるんですが、決してそうじゃなくて。もちろん、私たちもせっかくの広報の機会ですので、正しい理解をしていただくために、今これだけのことをやってるよということを申し上げますけども、終わった後でフリートキングで何でも結構ですっていうことでやりますので。何を言っても結構です。そういうやり方でやっておりますので、よろしくお願いいたします。今日も、時間が限られておるわけなんですけども、もしみんなの前だとなかなか言いにくいと、だけどこれだけは一言言っておきたいという方がありましたら、私、残っておりますので、何でもお聞きいたしますので、ぜひ、また後で言ってください。

司会－ よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございます。ではその他にご意見、ご要望ございましたら、ぜひ、よろしくお願いいたします。

団体代表G－ 若者を対象に、岡崎が住みよい町であるかどうかのアンケート調査、若者に対しての意識調査というようなものを、岡崎市では過去おこなったことがあるのか。もしな

いのであれば、そういった満足度を聞くアンケートを今後やる予定があるか、というものについて、少し追加質問させていただきます。

司会－ はい、ありがとうございました。それでは、回答をよろしく願いいたします。

総合政策部長－ 私ども、これを市民意識調査と申しまして、今、5000 人の方を無作為に選びまして、おおむね 2 年、場合によっては 3 年空けるときあるんですけど、われわれが何か大きな計画を見直すときに、どういう市民のご意向があるかというところを確認したいものですから、それで調査やっております。その中で、今、全体で申し上げますと、約 85 パーセントの市民の方に、この岡崎には住みやすい、住み続けたいという、好意的な評価といるのをいただいております。また、これも比較して申し訳ないですけども、同規模の豊田市さん、豊橋市さん、こちらのほうが同じ調査をやっております、大体 75 パーセント。なぜかという大きい分析まで至っておりませんが、とにかく好意的な評価をいただいております。これは若者にかぎったということではないんですけども、ただ、やはり暮らしに満足ということは、恐らく交通の便、それから福祉医療の面、そういったものが満足感を与えてるのかなと思っております。

もう少しつぶさにみれば、恐らく若者の方の傾向というのも出るかと思いますが、今私が持っているのは全体のものとございますので。答えとしては、こういうことでよろしいでしょうか。

団体代表 G－ 85%は満足というご回答でしたけれども、じゃあ満足をしていない若者が、どんなところに満足をしていないかっていうところも、やっぱりそっちのほうが大事ではないかなっていうふうに、私個人は思ってるんですけども。その辺は分析はされて、改善をされていっているのかどうかっていうことを、少しだけ伺いたいです。

総合政策部長－ はい、その解析をしております。ただ面白いことに、この満足であるという方と、不満であるという方の項目が、全く一緒なんです。満足という方は、公共交通の便がいいって言ってるんです。恐らくこれは、私ども名鉄本線、東海道本線、それから愛知環状鉄道がございまして、この 3 線がつながっておるという都市は、なかなか愛知県は少のうございますので、恐らくそういった評価かなと。それからもう一つは、買い物が便利であるという。この 2 点が、評価としては大きく出てるんです。

ただ一方で、不満という方の評価も同じで、交通の便が悪い。もう一つは、買い物が不便であるということなんですね。私ども、街場のものと、額田地区、東部もこれに近いんですけども、周辺部の所ですね、そのアンケートの、その方の住まわれてるエリアも確認してありますので、もしご要望があれば、そういった分析まで入っていけるかと思えます。一応、今、全体で眺めますと、なぜか同じ項目でその賛否が分かれておる。やはりそれは、街場の

方は利便性、特にこの辺りは利便性がいいものですから、恐らく好意的な評価。で、周辺部の方は厳しい評価ということかなと思っております。以上です。

司会— はい、どうもありがとうございました。その他、ご意見ご要望は。はい、お願いいたします。

団体代表H— 私は、中学校、高校、大学までずっと自転車で学校に通っているのですが、中学校までの道は自転車用道路といって、青いラインが引いてあって、自転車が通りやすいようになっていたのですが、高校と大学までの行き道では、なかなか自転車が通れる場所がなくて、よく、バスとかを待っている人が急に横に出てきて、自転車でひいてしまいそうになったり、逆に、車にぶつかりそうになってしまったことが何度かあったりと。姉が最近自動車に乗るようになって、助手席に座るようになってからは、自転車が急に道路側に飛び出してきたり、今日も車に乗ってきたときに、自転車が4列になって走っていたりと、ちょっと自転車の道路の使い方とかをもう少し考えたいなと思って。自転車用の道路が、もうちょっとはっきりとラインができたりしたらいいなって思いました。

司会— はい、ありがとうございました。それでは回答のほう、よろしく願いいたします。

総合政策部長— 今おっしゃられたように、例えば名古屋市辺りに行くと、もともと道が広いということもあるかと思うんですけども、必ず自転車の専用レーンっていうのが、かなりの距離でできておるのは事実でございます。岡崎市も、区画整理等やりました JR 岡崎駅の周辺というのは、かなりの歩道のところに自転車専用帯っていう表示がしてありまして、通れるようにはしてあるんですけども、残念ながら、今、お尋ねのように、長距離移動するその全てを網羅できとるかという、まだ全然追いついておりません。どちらかという、今、言いましたように、新しく区画整理をやった、その周辺は電柱を地中化したり、歩道を大きく取って、そこに自転車の専用レーンを付けたりという、そういう工夫はしておりますけども、なかなかこれは全市的に広がっていくというのは。やはり道路のもともとの狭さ等もありますので。

ただ、今、なるべく国県道、国や県の道ですね、これはかなり道路幅が広いものが多いものですから、こういった所はどうだろうというお話もしておるんですけど。一つ例を挙げますと、東岡崎からちょうど警察の辺りまでですね。その辺りは実はやりやすい。何でもかという、脇から出てくる大きな道がないんですね。残念ながら、これも警察まで行くと、今度は248号線が横断しますので、なかなかその先は、今はやれておりませんが、愛知県の事業として、東岡崎から警察の辺りというのは、今、手を打たれようということでございます。いずれにしても、ちょっと長い時間を掛けて、ゆっくり、申し訳ないですけど、お時間をいただかないと難しいかなということでございます。

市長― 今から 10 年ぐらい前に、私が県議会議員だったときに、国のほうから突然、道路に自動車専用道路作れっていう指令がきて。それから、これまで自転車が歩道のの上走ってたんですけども、それができなくなっちゃったんですよ。それで、これはヨーロッパにでも行った警察官僚が、それを見てきて、いいと思っていきなり、日本の東京しか見てなくて、日本でもやろうと思って、そういうの作って出してきたんだろうと、こう思ってますけども。当時は、県警の担当課長を呼んで、僕らも大変抗議したんですけども、残念ながら日本の道っていうのは、自転車を想定した作りになっていないわけです。

ヨーロッパの主要国のように、自転車を使った生活の歴史が長い所は、例えば、デンマークのコペンハーゲンだとか、オランダの大きなまちって、自転車の専用道路線ってのは、明確に道路の横に作ってあって、かなりのスピードで自転車が走ってます。そこの普通の人はみんな、気を付けて歩いてますけど、ああいうふうにできれば、もっと機能的なまちになるなというふうに思っております。

先ほど、部長が紹介しましたとおり、岡崎の中心市街地の戦後開発された道路は、結構幅員があって、余裕がありますので。田舎のほうの細い道に、自転車の専用道路を作っていくってことになりますと、これは道路の拡幅をしないと、なかなかそのスペースが取れませんので、ちょっと時間が掛かるんじゃないかなと思っております。ですけど、やっぱり、これからの健康なまちづくりということを考えたときに、必ずしも自動車乗らなくて、自転車を使った生活、今、自転車も性能のいいのが出てきてますから、高齢者でも十分使えますので、そういった方向は、当然、私たちも考えていかなければならんだろうなというふうに思っております。

司会― よろしかったでしょうか。はい。ありがとうございます。その他にご質問、ご要望ございますでしょうか。お願いいたします。

団体代表 I ― 11 月の 4 日に東康生商店街のほうで、化け猫祭りというのをわれわれやらせていただいているんですけども、今年の化け猫祭りも、ぜひ市長さん始め、岡崎市のほうにも協力していただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。あと、他の大学の皆さんもぜひ協力していただけるとありがたいので、よろしくお願いいたします。

司会― はい、市長よろしくお願いいたします。

市長― 自分が住んでる所のことですので、ちょっとこれはお詫びも含めてお話申し上げねばならんのですけども、確かに化け猫伝説っていうのは、はたで見ると大変面白いんですけども、あれ、マンションの角に化け猫のモニュメント作ったでしょう？ あれね、提案した人がしっかりと町内会で話し合いしたり、マンションの住民に話を通さずにやっちゃ

ったために、マンションの中から反対運動が起きてきちゃって。僕は面白いなというふうに単純に思ってるんですけど、そういうことがあるもんで、間もなく撤去されることになって、場所を変えることになってまいります。ですけど、この化け猫伝説っていうのも、本当とは思いませんけれども、面白い言い伝えですので、何とか市民の皆さん、また、観光客の皆さんに楽しんでもらえるようなイベントとして盛り上げていけたらなというふうに、個人的に思っております。

司会— よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございました。それでは、ご質問も尽きたようでございますので、最後に市長よりごあいさつを申し上げたいと思います。

市長— 今日は皆さん、遅くまでありがとうございました。これで市民対話集会としては41回目、それから、各種政策報告会、講演会としてはもう、私よくやったなと思いますけど、5年目入ってますけど、300回以上各地でおこなっております。呼ばれればどこへでも行きますということでやっておりますので、小学生、中学生が相手のときも、またそういうバージョンを作って、行っているいろいろお話をしておるわけです。これはやっぱり、今、岡崎は何をやっているのか、これから岡崎はどの方向に行くのかということを、一人でも多くの市民の皆さんに正しくご理解いただきまして、できたら協力していただきたい、そういう思いを込めてやっとなるわけでございますので、どうかご理解いただきたいと思います。今日はさまざまな提案を若い皆さまからいただきまして、できることはそうしたものを取り入れて、これからまちづくりをやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、今日、こうした所で、みんなの前だとなかなか言いにくいと、だけど一言お前に文句が言いたいという方がありましたら、私残っておりますので、また何でもいいですから、言ってください。今日は本当にどうもありがとうございました。